

にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ



新年おめでとうございます

会長 桐原 喜彦

会員の皆さんにはご壮健で幸多き新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年も数々の事業が皆さんの熱意ある参加で何れも実りある成果を収めることが出来ました。協会は来年は満30周年を迎えますが最近の活動で感じるのは市役所窓口や市民病院・保健センター等からのスペイン語系等の通訳依頼、各種出版物へ掲載する数ヶ国語の翻訳依頼等々が増えつつあることです。かつては米国・中国・韓国の各都市との姉妹・友好都市が締結され、いろいろな形の訪問団が往ったり来たりを繰り返して、当時「お客様ごっこ」と揶揄されたりもしましたが協会の草の根活動もそれらに関わりをもってきました。

近年、訪日外国人観光客は年々増加し、身近では地元企業・事業所等で働く外国人労働者が増え日常的にこれらの外国人生活者との触れあいの機会が多くなりました。前述の通訳や翻訳依頼の増加が顕著にそれを物語っています。協会創立当時には無かったことで、まさに国際化が身近なものになり境目の無いマゼコゼの社会になっていると感じます。

しかし地域に生活する外国人は、防災・福祉・医療・子供の教育等々の行政サービス情報の届き難い生活弱者とも考えられます。協会は今後も各事業を通じて異文化に触れ相互理解が深まると共にこれらの外国人生活者も住みやすい町になる為の一翼を担うことが出来れば嬉しいことです。

今年も会員皆さんにとって良き一年になりますよう、心から祈念いたします。



「にゅとぴあ岸和田」は世界のひとびと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



11/20
(日)

「みかん狩りに行ってきたよ！」

インドネシア・ベトナム・フィリピン・中国・日本、子ども3名を含む総勢46名で、北阪観光農場「洋光園」へみかん狩りに行きました。みかん園の人から鉢とみかんを入れる網をもらい、食べ歩きながらおいしいみかんを探します。網一杯にみかんを詰めると口がくくれない。輪ゴムを持ってくればよかったと後悔していると、枯れ草で口をくくって笑顔を見せてくれた子。その知恵とやさしさに感謝しました。イスラム教では天国はこの果樹園のような場所だそうです。みかん園を後にランチのためトンボ池公園へ。私はインドネシアのグループにお邪魔しました。ナシゴレンは日本のお味噌汁のように各家庭それぞれの味があるそうです。少しずつみんなから分けてもらって、本当にそれぞれ違う味がして、でも全部おいしかったです。その後ギターに合わせて歌を歌ったり、縄跳びやゲームを楽しみました。毎日働いて大変なのに元気いっばいに遊ぶ姿がまぶしかったです。



帰り道、紅葉を見ながら赤い絨毯の上を思い思いに歩き、「落ち葉合戦」が始まりました。「春の桜、夏の花火、秋の紅葉、冬の雪を日本で見たい」と言っていた子にすべて見せてあげたいと思いました。この『地球どんぶり』が目指すように、どの国の人も寄り添い、共に協力し合ってゆく地域でありたいですね。(伊藤 恵理子)

苔テラリウム体験講座

～瓶のなかに自分だけの小さな森をつくる～

12/11
(日)

マドカホール創作実習室で“みんな集まれ！地球どんぶりの一事業として、外国人を含む会員及び一般市民の参加のもと、募集定員いっぱいでの25名で開催されました。生きた苔や小石などを使って透明なガラス小瓶のなかに、受講者の思いの森や庭を造り出すというものです。

指導をお願いしたのは、府立高等学校の非常勤講師でもある泉原一弥さん。泉原さんは地球温暖化防止への熱い思いを心に抱きつつ、本業のクリーニング店の営業用の車の屋根に生きた苔を積んで市内を走りまわるというユニークさで市民に親しまれています。



作業ガイダンスのあと、深い浅いの、丸いの、四角などのガラス容器から早速各々好みの容器を選び何種類もの苔をレイアウト。小瓶の中を四方八方から眺めてはできえを評価し合います。参加者全員童心に返って、あっという間に楽しい時間が過ぎました。手入れは簡単、週一回(夏場の場合)霧吹きで軽く水を補給するだけ。手のひらサイズの小さな森は長く楽しむそうです。地球温暖化防止と心の平安を願いつつ！(井上 實)

ふれあい交流祭り

11/23
(祝)

関西国際センターで行われた「ふれあい交流祭り」に参加しました。日本語や日本文化の勉強にきている世界各国の人たちと、地元との交流の機会でもあります。地元の各団体のブースは居合書道などのコーナーが設けられ、岸和田親善協会のブースでは、日本の伝統的な遊びや、プラバンアクセサリー作りを行いました。

センターでは色鮮やかなアオザイなど国際色豊かな民族衣装を着た研修生の方々が行き交い、華やかでこのイベントの私の楽しみでもあります。



アルメニア、ネパール、エジプト、コスタリカなどのブースを回り、研修生から、美しい山々や遺跡、お菓子やお酒について話を聞きました。おだやかなナイル川、砂漠、夕日、ピラミッドやスフィンクス他の遺跡の写真が印象的でした。今話題のスーダンそしてイエメン、ジンバブエの方々ともお会いできました。話を伺うとだんじり祭りに来ていた人も多く、イングリッシュオープンカフェにお招きした折には、岸和田のことを是非アピールしてみたいと思いました。

広い海と関空連絡橋が一望できるセンターのカフェレストランでの親善協会メンバーとのティータイム、甘いケーキとともにこの日の充実感をかみしめました。(西山 みゆき)



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとられず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

世界一搭乗手続きが 厳しいイスラエル



地中海に臨むテルアビブ



1948年、国連決議でパレスチナ地域は分断され、イスラエル

国家が誕生した。周囲は敵国に囲まれているため常にテロの危険と隣り合わせである。1979年テルアビブ・ロッド空港(現ベン・グリオン)で起きた日本赤軍による乱射事件以来、警備は非常に厳しくなっている。特に出国手続きは難儀と忍耐を伴うので、予め十分に認識しておく必要がある。イスラエル滞後、エジプトを除く他のアラブ諸国へ入国する場合、旅券にイスラエル入国の履歴があると、入国は拒否されるのみならず、厳しい取り調べを受けることになる。従い入国審査の際は必ず「No Stamp Please」と言えば、別紙にスタンプが押され、出国の際、回収されるので問題ない。因みに私の旅券ではイスラエルは未知の国となっている。

厳しい出国審査に備え、英語会話能力に関係なく、遅くとも3時間前までには空港に着く必要がある。まずズラリと並んだ長机の前で、審査官と1対1の尋問が英語で行われる。入国目的、職業、趣味、旅程、宿泊先、訪問先、知人の有無、面談者の名前、おみやげ、荷物梱包者の名前と場所、空港での不詳人物との接触の有無等々同じ質問を審査官2~3人が交替で、話の整合性チェックのために実施するのである。予備知識十分と自信のあった私でも、日本語の商談議事録や訪問先人物の名刺のコピーを取られたが、それでも20分を要した。もし個人旅行で英語を話せないとなると面倒なことになるのは必至である。荷物は徹底的に調べられるのは勿論、別室で半裸に近い状態で厳しく詮議されることもあると聞く。ここでは人権云々は関係なく、ひたすら忍耐が肝要である。厳しい出国審査の後、漸く飛行機の搭乗手続きが可能となる。しかしこれで安堵はできない。搭乗タラップの下で未積載の荷物が並べられ、乗客との確認作業が行われる。不明荷物は置き去られる。さらに機内でも厳しいガードの目が光っているので、挙動不審な行動は厳に慎まなければならない。

2000年以上に亘るユダヤとパレスチナとの確執の地、イスラエル。しかしエルサレムなど歴史的に貴重な史跡が、歴史の証人、人類の遺産として数多く残っている。後世のためにこれらの貴重な遺産を引き継いでいくのが現世の使命と考える。1日も早く安らぎの日が訪れんことを切望する次第である。(塩屋 裕)

10/15 Kim Maruyama さん
(土) (北アイルランド)

北アイルランド出身の彼女は日本人男性と結婚されてずっと日本に在住され、なんと 2014～2015 年の NHK 朝ドラ「マッサン」でエリーさんを故郷で気遣うお母さま役を演じた方です。北アイルランドというあまり馴染みがないかもしれませんので、ここで簡単にご紹介させていただきます。いわゆる英国とは正式名称をグレートブリテンおよび北アイルランド連合王国と言い、イングランド、ウェールズ、スコットランド、そして北アイルランドの 4 つの国から成る連合王国です。北アイルランドはその連合王国の一部で、アイルランド島北東に位置します。

ところで英国は今年 6 月の国民投票で EU から離脱を決めました。北アイルランドではアイルランドのパスポートを申請する人が急増しているそうです。これはやはり EU 市民でいることのメリットが多いことを物語っているのでしょうか。ちなみに北アイルランドの方は希望すれば英



国とアイルランド両方のパスポートが持てるそうです。

北アイルランドの方は英国内で長年激しい差別、対立にあっってきました。これはカトリックとプロテスタントという宗教対立から来ているそうです。このため街中が分断され、Kim さんは 1 週間ほど家に帰れないこともあったそうです。話は変わりますが英国はパブが非常に多く、日中からお酒（ビール）を飲むことは一般的なようです。お昼もランチを食べるよりまずはビールという雰囲気のようなです。ちなみにギネスビールはアイルランドのお酒（ビール）です。

英国の存在感もあって、北アイルランドにはあまり馴染みが無かったかもしれません。このコラムを通じて少しでも北アイルランドへの理解が深まれば幸いです。

(岩田 和之)



11/19 Elena Martin Lores さん
(土) (スペイン)

11 月のカフェのゲストは、Elena Martin さん、スペイン出身の女性でした。日本のアニメや映像に興味を抱き来日。早稲田大学で勉強に励んだそうです。それから一時帰国しましたが、再び来日。今回は英語とスペイン語の教師として、大阪に滞在しているらしいです。

スペインは、州ごとに全く違うそうです。地形や、気候、文化、習慣、言語さえも違うのです。エレナさんはガリシア州出身で、スペインの北部にあります。ここはサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼で有名だそうです。そして北部の海は日本海と似ているそうです。

南部のアンダルシア地方は、私達がスペインと聞いて一番先に思い抱くような、フラメンコや闘牛で有名です。

彼女は闘牛を好きにはなれないと話していました。



また南部ではシエスタ（お昼寝）が習慣ですが、北部でのシエスタの時間は南部ほど長くないそうです。

世界的に有名なサグラダ・ファミリア、アルハンブラ宮殿等。カフェのリスナーにもスペインを訪れた方々がいて、素晴らしいスペインの建造物に話が弾みました。

またスペイン料理の美味しい店が大阪にあること等、すっかり日本の生活を楽しんでいらっしゃるエレナさん。私達の質問に気さくに答えてくださって、明るく、楽しいカフェになりました。(東田 和代)



河内長野市国際交流協会との交流

11/24
(木)

午前中は、「飛鳥時代から現代に至るまでの池改修の歴史」を展示する狭山池博物館へ。圧巻は長さ約 60m の飛鳥時代の東樋と江戸時代の東樋（ともに本物、重要文化財！）！飛鳥時代のもは何と西暦 616 年の高野槿！江戸時代の樋は釘を使っているが、飛鳥時代は釘を使わず、丸太をくり貫きつないで水の漏れない樋を作っていた。特別展示「河内の開発と渡来人」（四條畷市部屋北遺跡）では、古墳時代中期の職人が作った見事な品々が並ぶ。私は木製の琴に目が釘付けに。古い昔に隣の国との交流が盛んにあったこと、そしてその驚くほど高い技術。どんな人たちが作り使っていたのか、想像すると楽しくてまだまだ見ていたかった。館の方の説明もわかりやすく、久米田池の説明もあり大変興味深くあらためて久米田池のことを知りたくなった。

お昼に河内長野市国際交流協会に到着

すると、みなさんがおいしいお弁当を用意して待っていてくださった。和気あいあいとした歓談のあと聞かせていただいた活動内容は、地域の学校とコラボしての交流会、地域の町づくり協議会と連携した防災訓練、大人気の国際料理教室、世界の最前線を聞く「国際情勢講座」など、地域に暮らす人々と連携協力した素晴らしい企画の数々だった。「交流はすべての基礎。日本人外国人関係なく、地域の人とともによりよい河内長野を作りたい」とおっしゃっていたのが印象的だった。

交流会後は観心寺の紅葉狩り。みなさんが気楽に話しかけてくださりわいわいとバスでの小旅行。本当に楽しい一日だった。

(杉山 優子)



日本語 サロン

日本語サロンだより 春木サロン編

春木サロンは毎週水曜日春木市民センターで、午後7時から8時半まで開いています。現在ボランティアスタッフ15名、学習者40数名が在籍しており、2部屋借りている教室はいつも活気に溢れています。

このところ、インドネシア、ベトナムからの技能実習生が多く、彼らは主に日本語能力試験 N3 や N4 合格を目指して勉強しています。また N3 に合格して N2 を目指している方もいます。今年度はインドネシアの看護師さんが9名入れました。また定住している中国の方も何人か参加されています。以前はブラジル人、ペルー人、ネパール人、韓国人なども在籍していました。学習者の要望はそれぞれ様々ですが、常に学習者の人数がボランティアスタッフを上回っている状況ですので、マンツーマンでの対応は困難です。ただ残業や家庭の事情等により休む方も多く、実際には毎回20数名から



30名の参加で何とか凌げていますが、椅子が足りずに立って学習する光景も見られました。

サロンは交流の場でもありますので、昨年はボーリング大会を行ったり、日本の文化を少しでも楽しんでもらおうと新年会を開き書初めをしたり、お茶を点てて和菓子をいただくイベントも行いました。

春木サロンはパンク寸前の状態ですが、グループ学習や自習なども取り入れ、学習したいという方たちを臨機応変に受け入れようというスタンスで、ボランティアスタッフ一同取り組んでいます。養成講座を修了された皆様方、是非とも春木サロンへご参加いただきますようお願いいたします。(春木サロン)

日本語サロン ボランティア交流会 (レベルアップ講座)

10/29
(土)

日本語サロンボランティア向けのレベルアップ講座として、今年は講師を招かずにボランティア同士の交流会を行うことになった。参加者は合計16名、養成講座第2期から13期までの幅広い層の参加者が、「同期別」「学習者の国別」「マンツーマンかグループ指導か」のテーマごとにそれぞれ3つのグループに分かれ、自らの体験談やサロン

ごとに特色ある活動状況を紹介しながら活発に意見を出し合った。現在多くのサロンの最大の悩みは学習者に対してボランティアの数が不足していることだ。マンツーマン指導が理想ではあるがやむなく複

数指導を併用している状況だ。国籍や学習レベルの違いに加えて、学習目的や興味も様々な学習者にいかに楽しくサロンに参加してもらおうか、私たちの悩みは尽きない。

今回の交流会は何らかの答えを得ようというのではなく、「日本語学習支援のみならず日本の文化や習慣を紹介することによって生活面での支援も目指す」という日本語サロンの原点に立ち戻って考え直すよいきっかけになった。ぜひ今後の活動にも反映していきたい。(藤平 敬子)



スピーチ&ランチパーティ最終回を終えて

11/3
(祝)

カンガルーという言葉は、イギリスの探検家がアボリジニに「あのピョンピョン跳ねる動物は何ですか?」と聞いたら「カンガルー(私は知りません)」と答えたという俗説があります。カンガルーは後退せず、前進するのみ No Regressing Only Progressing. と聞いて、知らないから始まり、絶えず進歩するというアイデアが気に入って、クラブの名称としたのです。2008年に発足して9年目。結構続いたものだと、自分でも驚いています。メンバーに恵まれているのが最大の原因だと思います。その年から Speech & Lunch Party を始めました。世界的なクラブ: トーストマスターズクラブに長く関わっていたので、それを真似したわけです。ロバートさんのコメントを一例だけ載せておきます。

The care for my dear ones. I was touched by the determination that you spoke of in your speech about looking after your 'dear ones'. To have even one person to look after is beyond my power. And you also brought up the issue of dementia. That is a difficult subject to talk about in any language, much less a second language. Your expression: "Caring for them often cheers me up." speaks volumes about your character. Well done!

(「最愛の者たち」の世話をすることをスピーチに取り上げようと思われた気持ちに心打たれました。一人の世話でも私には出来ないのではないかと。また認知症の問題も語られていました。どの言語でも難しい問題なのに、それを外国語でこなしたのです。あなたの使われていた「お世話することが私を元気づけた」この表現は見事に貴方の人格を語っています。最高です!)

TED のスパープリゼンテーションの影響も大きく英語力もアップしているのが皆さん上手で感動しました。とても嬉しい、誇らしい気持ちにさせてもらいました。この後ポップ ティランの「風に吹かれて」「おじいさんの時計」歌、ジョークコーナー、クイズなどをしました。準備は大変でしたが、それに見合う成果があったと確信しています。

スピーチ&ランチパーティは今年で最後になります。長い間ありがとうございました。

(カンガルークラブ指導者 橋爪 厚生)



岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。



第20回は看護の勉強のためインドネシアから来日中の
アセップ ヌロクマン君(バリ島)
ヘルリナ バタさん(スマトラ島)

日本の国際貢献の一環で、発展途上国の発展を担う人材育成のため我が国の進んだ技能知識を外国人に習得させる制度としてEPA(経済連携協定)と技能実習制度がある。1年前にEPAに基づきインドネシアから来日したアセップ ヌロクマン君(バリ島出身)とヘルリナ バタさん(スマトラ島)は共に30才前後の独身で春木若松町に住む。母国では看護関係業務に従事していたが、より高度な技術を学ぶため来日し、現在ヌロクマン君は泉佐野市、バタさんは堺市の病院で実習中であり日本の看護師国家試験を目指している。



アセップ ヌロクマン君(バリ島) ヘルリナ バタさん(スマトラ島)

傍ら料理をしたり時には旅行もし日本蕎麦、寿司、天婦羅が美味しいと言う。彼らは帰国後は日本での研鑽を生かして祖国の医療面で貢献したいとのこと。更にヌロクマン君は日本語指導のボランティアをしたいと頼もしい。

日本は毎年、対象3国から看護関係で100名余を受け入れているが毎年、国家試験合格率は全体の90%に対し、多くのハンデがあるため10%に過ぎず期間内の4年間に合格して帰国できるのは20%で、合格しなければ日本滞在は許されないという過酷な現実が待ち受けている。

二人はまだ若い。今の情熱を失わず精励し続けば、君達の夢は必ずしや実現し帰国後は見事に結実するであろう。健闘を祈る。幸いあれ。
(取材：奥野 藤樹)



バリ島

初体験の連続で苦しいことも多いが周辺の方は優しく親切で、その助力を得て業務に忙殺されつつも充実した楽しい生活を送っている。お二人は訪日前に一定の日本語を勉強済みで日常のコミュニケーションに問題はないが人と接する仕事でもあり、特に医療関係では難解な用語が多い為、一日も早い日本語マスターに積極的で、その一助として親善協会春木サロンに毎週必ず仕事を終えてから通っている。

「岸和田は賑わいがあり清潔で生活する上で何かと便利です」と口を揃える。休日には看護や日本語の勉強をする他、ヌロクマン君はモスクに行ったりバドミントンを楽しみ、焼き鳥、ラーメン、カレーが好物で、一方、バタさんは教会に行く



スマトラ島 火山

Information

■English Open Café の開催

(と き) 9月以外の毎月第3土曜日 13:30~15:30
(と ころ) マドカホール3階 視聴覚室
毎回いろいろな国の方をゲストスピーカーにお迎えしています。申込み不要、会員以外の方も自由に英語をお楽しみください。

■Mixed Roots 学習サポート

(と き) 9月以外の毎月第3土曜日 13:30~15:30 ※English Open Café の後
(と ころ) マドカホール3階 視聴覚室
外国にルーツを持つ子どもたちや帰国子女たちの学習サポートを行います。サポートが必要な子どもたち及びサポートして下さるボランティア、両方募集しています。

■マラソン選手歓迎交流会

(と き) (2月17日(金)) 18:30~20:30
(と ころ) がんこ岸和田五風荘
(費用) 3,000円
泉州国際市民マラソンに参加する姉妹都市からの招待選手を歓迎し交流する会です。ぜひ皆さんご参加ください。

■泉州国際市民マラソン街頭応援

(と き) 2月19日(日) 12:00ころ
(と ころ) 岸和田城お堀端(岸和田市消防署岸城分署前)

■「KIMONO クラブ」体験会

(と き) 4月8日(土) 14:00~16:00
(と ころ) マドカホール3階 和室
日本の民族衣装「きもの」を着られるようになりたい外国人、日本人両方集まれ! まずはお友だちと一緒に体験会にお越しください。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

■総 会

(と き) 4月30日(日) 13:30~
(と ころ) 自泉会館 ※詳細は後日お知らせいたします。

にゅとびあ岸和田 No.110 編集担当

緒方理世・奥野藤樹・栗尾宣子・塩屋 裕・藤平敬子・三森すみ代
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072) 457-9694